

令和6年度 大阪府立光陽支援学校 第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	天野 ちさと

開催日時	令和6年7月2日(火)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(副会長) 北埜 恵一(委員) 渡瀬 博子(委員)
出席者(学校)	天野 ちさと(校長) 道前 光司(事務長) 中村 素子(教頭) 藤原 博之(教頭) 竹内 成江(首席) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 菊池 亮輔(首席) 佐藤 薫(指導教諭・病弱部主事) 網中 有里(指導栄養教諭) 辻 美穂(小学部主事) 田中 美津子(高等部主事)
傍聴者	小学部保護者1名
協議資料	下記議題関係資料
備考	

議題等(次第順)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>(2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介</p> <p>(3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出</p> <p>(4) 「学校運営協議会実施要項」「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認</p> <p>(5) 本年度の予定</p> <p>(6) 本年度「学校経営計画」について</p> <p>(7) 意見交換</p> <p>(8) 教頭挨拶</p>
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
<p>(1) 校長挨拶</p> <p>・本日は、久しぶりに皆様と対面で開催できることをうれしく思う。今年度は、小学部10名、中学部10名、高等部12名の新入生を迎え、全体では、肢体不自由部門120名、病弱部門30名前後で推移している。今年度5月に肢体不自由部門の運動会を初めて全学部体育館で実施した。暑さの心配がなく、概ね好評であった。宿泊学習も順調に実施できている。昨年度の学校運営協議会では、様々なご意見をいただき、課題が見えるとともに、本校の良さも確認することができた。本日は、それぞれの立場から忌憚なきご意見をいただき、学校運営に生かしていきたい。</p> <p>(2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介</p> <p>(3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出</p> <p>・会長に大阪大谷大学 小田様、副会長に大阪教育大学 平賀様を、全員一致で信任。</p>

(4)「学校運営協議会実施要項」「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認

- ・昨年度より大きな変更点なし
- ・委員の任期は2年であるため、今年度再任の方は、令和8年度までが任期となる。

(5) 本年度の学校運営協議会の予定

- ・第1回6月29日、第2回12月中旬、第3回2月下旬の3回開催予定

(6) 本年度「学校経営計画」について

1. 「めざす学校像」については、昨年度と同様の4つの柱で取り組んでいく。
2. 「中期的目標」については、【基礎】(3)に「施設設備の点検、備品等の管理を徹底し、安心して学べる環境を整える」の1文を追加した。
3. 本年度の取り組み内容について

安全安心力の向上

- ・「危機管理体制の強化」については、昨年度の「学校教育自己診断アンケート」の中で評価が低かった項目であり、特に重点的に取り組みたい。今月19日に、災害時を想定した保護者への「引き渡し訓練」を実施する。不要物品を計画的に廃棄し、「物のスリム化」をはかる。

授業実践力の向上

- ・キャリアプランニングマトリクスが完成したところであり、それを意識した教育実践に取り組んでいる。
- ・より質の高い教育実践を行うために、「病弱教育における教科指導力をさらに高め、教科書改訂等に伴う必要書籍や研究書籍等を確保し研究を進める」「肢体不自由部門と病弱部門の教員が相互に学びあう機会を広げる」の2点を加えた。
- ・自立活動については、子どもたちの体に焦点を当て、基礎知識を底上げするための校内研修を行う。PT、OT、STからの助言の共有、活用を充実させる。

組織力の向上

- ・「教職員の働き方改革」として、校務のスリム化を追加。「学校教育自己診断アンケート」の中で評価が低かった項目であり、「やめる」「へらす」をスローガンに、改善できそうなことを見つけ、運営委員会Bで具体的に検討していく。
- ・「光陽ふわり・ほっと」の活用を追加。Google フォームを活用し、毎週木曜日に共有するようにしている。

発信力の向上

- ・今年度、近肢研、大肢研(自活研)、大阪府造形研の幹事校に当たっている。役割分担しながら、組織的に取り組んでいる。
- ・病弱部門の保護者に対しても、学校の取り組みを積極的に伝えていきたい。

○ボッチャクラブの取り組みの動画視聴

○首席・部主事より、各学部の報告

- ・児童・生徒の人数が増え、教室が足りない。特別教室が確保できず、ホールや廊下で授業をしている現状である。
- ・宿泊学習で電車に乗った。コロナ禍で、電車体験ができていない学年であり、とても喜んでいた。
- ・宿泊学習を通して、子どもたちのことをより深く知ることができた。保護者の大変さが実感できた。
- ・大学のAO入試に向けての取り組みや、卒業後の進路に向けての取り組みが始まっている。
- ・準ずる課程の生徒が、テレワークで他校との交流を行った。普段話さない生徒が、自分から発言する姿が見

られた。

- ・長く入院するのでなく、入退院を繰り返しての治療が一般的になっている。ぜひ、地域の学校からのアドバイスを受けたい。
- ・病院の制限が減ってきて、病院の大きなホールを借りて病弱部の運動会を実施することができた。
- ・今年度、肢体不自由部門から病弱部門に異動し、同じ学校なのに知らないことがたくさんある。肢体不自由部門と病弱部門をつないで、組織力を高めていきたい。

(7) 意見交換

- ・下欄に記載

(8) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

- ・本校の「キャリアプランニングマトリクス」はどういうものか。
 - 本校では、教員が自分たちの願いや子どもたちの姿を思い浮かべて、自分たちの言葉でつくりあげた。使いやすいものができたと思っている。
- ・病弱教育において、教科指導力を高めることは、とても大切。入院前後、地域の学校で学ぶ子どもたちであり、この学年でこの時期にどこまで学んでおく必要があるのかを知っておくことが大切である。地域の小・中学校の先生をお招きして、アドバイスを受けることも必要ではないか。
- ・自立活動の充実については、教員でできることには限界があると思う。コロナ対策で、担任の先生にリハビリ見学をしてもらう機会も以前より少なくなった。セラピストの先生方にもう少し協力してもらえ時間があってもいいのではないか。
 - 整形外科や嚥下などの専門医師の巡回相談や、PT・OT・STの自立活動相談を定期的実施している。今年度から、せっかくだいたい助言を共有して活用できるよう、取り組んでみてどうだったかを振り返る機会を設ける。
- ・「セラピストからの助言を教育的にどう受け止めるか」の専門性を高めるための研修が必要である。
- ・サブティーチャーや子ども同士の関わりに視点を当てた研究授業もよいのではないか。また、模擬授業を一人5～10分でやってみるのはどうか。
- ・「教職員の働き方改革」について、子どもたちによりよい教育をするために、先生方にも自己調整力が必要だと思う。
- ・「光陽ふわり・ほっと」の取り組みがとてもよい。特別なことでなく、日常の中での「ふわり・ほっと」をそれぞれの先生方が、一日一つでもいいので探して見つけることが、メンタルヘルスにつながると思う。
- ・「ふわり・ほっと」であがってきたことを、発信できるところは発信して欲しい。教員の仕事の大変さばかりがアピールされて、教員の志望者が減っている中、教員の魅力、やりがいを伝えるためのメッセージが欲しい。
- ・個人情報の問題はあるが、いろいろな形で取り組みを発信していけるとよい。
- ・センター的機能は、外部のためでもあり、内部の専門性を高めることにもつながる。
- ・ボッチャについては、動画が配信されているが、ロボットプログラミング、スピーチコンテスト、絵画コンクールなどは、あまり知らされていないので、もっと発信して欲しい。
- ・「学校教育自己診断」の評価指標は、肢体不自由と病弱の平均で出すのではなく、それぞれの障害種別ごとに目標を決めた方がよいのではないか。
- ・高校の入試など、流れが大きく変わってきているが、支援学校の方には、あまり情報が入ってこないのではないか。いろいろな価値観が変わってきている中、情報の共有が大切であると思う。

次回の会議日程	
日時	令和6年12月3日(火) 予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室